

## 中東時事アップデート 2019年5月17日

アミール・ツアルファティ

- ペルシャ湾クライシス PERSIAN GULF CRISIS -

<https://youtu.be/aO5sk4Ojiwo>

ではみなさん、そろそろ始めたいと思います。

まず初めにお伝えしたいのは、ほんの3時間前に、ダマスカス郊外の防空システムが作動しました。あの地域一帯で、爆発音が聞かれたようです。シリアのメディアは、イスラエルの戦闘機が、ヒズボラとイラン革命防衛隊の部隊の両方に関連する標的を破壊していたと言っています。それからいくつかの報道では、イスラエルのドローンが、ダマスカス上空で撃墜されたと伝えています。どれひとつとして確証はされていません。もちろん、イスラエルは何も確証しません。しかし私が理解できることは、たしかにダマスカスの郊外で、なにかが起こりました。また、他の報道から、いくつかの地対地ロケットが、ゴラン高原よりダマスカス郊外にある特定のイラン革命防衛隊の標的に向けて発射されたようです。このことは、すでにペルシャ湾で起こっていることにさまざまな影響を与えます。

Barry先生、私たちは、軍事的対立の可能性の寸前にあると言えるでしょうか？

(※(A):アミール・ツアルファティ (B):Barry Stagner牧師)

(B)私たちが目にしているのは、比較的小さな地域に、いくつかの重火器が移動されている様子です。アメリカの空母アブラハム・リンカーンとその戦闘群が、現在、ペルシャ湾に駐留していることが分かっていますし、それから、潜水艦があちらの艦艇のある場所で活動していることも分かっています。それから、中東から異なるレベルの舌戦が起こっていることも分かっています。さらに興味深い展開がイランの側でありました。典型的な大ボラ吹きの威嚇があり、これは常に彼らがすることですけれども、この数日の間に、いくつかの話がありました。彼らは実際、ミサイルを一般の民間人のボートに積み込んでいます。これは、(2000年10月に爆破された)米海軍駆逐艦コールの時と同じタイプのシナリオで、小さな舟に大量の爆薬を積んで、船の舷側(船の側面)に突撃していきます。撃沈させることができなくても、穴を開けることは可能です。繰り返しますが、軍備拡張が我々と彼らの双方であるため、何らかの形でペルシャ湾で軍事的にエスカレートする可能性はあります。

(A)ええ。それからとても興味深いことに、先ほど読んだのは、イランの原子力委員会のトップによる2時間ほど前の発言です。「もし、あちらで戦争が起これば、第三次世界大戦につながり、イスラエルは半時間の間に破滅するだろう」彼がそう言いました。もちろん、聖書を知っている人なら、滅ぼされることを心配すべきなのはだれであるのか、みんな知っています。それはイスラエルではありません。しかし、皆さんがご覧の通り、いま、私たちが話していた舌戦は、新たに激しくなっていて、脅迫が新しいレベルになっています。また、私たちが聞いているのは、この数週間間にアメリカが新しい制裁を課して以来ずっと、…実際、さらに厳しい制裁で、それについては後ほどお話ししますが、革命防衛隊、アルクーズ旅団のトップであるガーセム・ソレイマーニー、彼は、実際にイランの代理の“蜘蛛の巣”を中東全体に広げた男ですが、彼がはるばるイラクの代理、イエメンの代理、シリア、レバノンのところまで行って、言ったのです。「戦争の備えをしろ。代理戦争だ」言い換えれば、「イランは積極的にはその一端を担わない。しかし、我々の汚い仕事をさせるために、我々はお前たちを戦闘配備する」

(B)興味深い話が出て来ました。“The Times of Israel”だったと思いますが、ガーセムが、実際に軍事高官2人と一緒に、イラクでセルフイー(自己撮り)を撮っていました。基本的に、アメリカにこのように言っているのです。「聞け。お前の急所はあらわになっている。我々は、お前を潰す。我々は、お前を恐れてはいない」その終わりには、また別のイラクの高官の声明もあって、「我々は、お前たちの軍艦や戦闘群のペ

ルシャ湾駐留を、全く心配していない。なぜなら、我々はお前たちの弱点を暴露するからだ。そして、これらの代理要因を通して、お前たちをひざまずかせる」私たちが理解しなければならないのは、皆さんの多くがご存じないでしょうが、イランは大きな国ですが、サウジアラビアとは国境を接していません。イランは、イスラエルとも国境を接していません。それでいてイランは、何らかの形でサウジを撃つ事ができ、それからイスラエルを撃つ…というか、撃とうとする事ができるのです。それはもちろん、彼らの代理の助けによつてです。説明しますと、イランはイランにいるかもしれませんが、彼らは彼ら自身の軍事駐留を地元民兵の形で作り出しています。イラクでは、彼らは“ハシャド・アルシャビ”で知られている一般軍です。シリアとレバノンは、もちろんヒズボラ、イエメンにはフーシ派がいます。彼らが“フーシ派”と呼ばれているのは、彼らの指導者の名前が、“アブドルマリク・アル・フーシ”で、そのため、彼らはフーシ派です。そしてこれらの組織は、資金や武器、実弾と訓練を、直接イランから受け取っている集団で、彼らのすべては、ガーセム・ソレイマーニーが統制しています。総督ガーセム・ソレイマーニー。彼は現在、イスラエルとアメリカの両方で、もっとも指名手配されている人物のひとりです。

さて、Barry先生、多くの人が混乱しているのは、現在私たちが耳にしているように、イランの脅威になると、なぜ中東は、そんなに問題が多いのか？問題の核心に戻りましょう。

(B)まず第一に、これはペルシャであるということ指摘しなければなりません。エゼキエルのシナリオの中で、イランは強い敵意を生み出す国です。そして、他の国々と一緒になって、北部国境からイスラエルへ攻め込みます。そしてエゼキエル38章、39章が告げているとおり、神ご自身が彼らに対処されます。ただ、私は今朝、このことについて考えていたのですが、我々アメリカ人にとって、これはある意味、いたる点においてデジャブ（どこかで体験したことのように感じる事）なのです。なぜなら、私たちが見ているのは、中東が石油価格を支配していて、イランの動きはイデオロギーかもしれませんが、経済を動機として利用して価格を上げようとしていたり、石油市場のメカニズムを操作しようとしています。価格は1バレル\$50（\$=ドル）以下が何ヶ月も続いていて、今では、サウジアラビアのパイプラインと、サウジアラビアの2隻の船が攻撃されてから起こっていることを見てください。現在、すでに\$70にまで上昇しています。その理由を指摘するのは、大切だと思います。なぜなら、エゼキエルのシナリオで、明確に指導されていますから。この侵略は、経済的な部分が大きい。そして抗議する国、サウジアラビアと他の湾岸アラブ諸国が言うのです。「なんのための侵略だ？あなたがたは、なぜ北から攻めてくるのか？分捕り物を取り、略奪するためか？」これは非常に重要です。

シェバやデダンやタルシシュの商人たち、およびそのすべての若い獅子たちは、あなたに聞こう。『あなたは物を分捕るために来たのか。獲物をかすめ奪うために集団を集め、銀や金を運び去り、家畜や財産を取り、大いに略奪をしようとするのか』と。

それゆえ、人の子よ、預言してゴグに言え。神である主はこう仰せられる。わたしの民イスラエルが安心して住んでいるとき、実に、その日、あなたは奮い立つのだ。

あなたは、北の果てのあなたの国から、多くの国々の民を率いて来る。彼らはみな馬に乗る者で、大集団、大軍勢だ。

(エゼキエル38章13節から15節)

なぜなら、世界のあの地域は、最近まで石油市場を支配していましたから。OPEC（石油輸出国機構）が策略を練って、市場を1バレル\$100以上に上げるのを、私たちは見てきました。しかし、経済的なことは一部分です。なぜなら、エゼキエルのシナリオに出て来るこれらの地域を見ると、彼らはいくつかの共通した特色を持っています。そのひとつに、彼らは大きなムスリム諸国であり、しかも過激派イスラム諸国です。第二に、彼らは皆、国民に関して苦勞していて、第三に、石油価格は彼らにとって受け入れがたいのです。それが彼らに影響していて、経済的には、私たちが見ているとおり、制裁が課せられ、イランと取引する国は罰を受けます。過去には、彼らから石油を免除されていた国もです。（以前は、イラン産原油を輸入して

も制裁が免除されていた国があったが、今回はそれが無い。イランから原油を輸入する国は、すべて米国の制裁対象になる) ですから、この経済的要因、これが私たちをある領域へと押しやります。

(A)では、とても多くの視聴者の皆さんが頭の中で混乱しているようなので、順番にまとめましょう。イランは、人口8千万人以上の国です。彼らはずっと核兵器の開発に取り組んできました。彼らはそれを一度も認めていませんが、彼らは開発をしています。イランという国は、それをあきらかにすることを望んでおらず、そのためにジョージ・W・ブッシュによって、イランに対して制裁が課せられました。また、その前にもありました。そこへ、あのオバマ大統領が登場して、ある日、突然イランとの協議に調印しました。ヨーロッパ、ロシア、それから欧州連合も一緒でした。そして私たちが見たのは、制裁が解除されて、銀行口座の凍結も解除され、何よりも気がかりなのは、アッヤトラー（イランの最高指導者）に現金が与えられたのです。ダッフルバッグにいっぱい。ところで彼らは、\$1として米ドルを望みませんでした。彼らは外国通貨を望み、アメリカ合衆国は自家用機を世界中に送って、世界中の中央銀行からアッヤトラーに支払うための現金を回収したのです。彼らを交渉の座に着かせ、協議に調印させるために。そうして武器を開発するための計画はあきらかにされず、彼らの経済は大いに引き上げられました。その資金は本当にイランの経済を回復させたのか？イランの国民の利益になったのか？実際には、何が起こりましたか？

(B)裕福な都市で、失業率が45%です。私は、それが”Shovel-ready jobs”（すぐに着工出来る事業）に回ったとは思いません。ここアメリカで最近使われたフレーズですが。ただ、これが興味深いと思うのは、渡ったすべての米ドルは、どの通貨が使われたかに関係なく、約1500億ドルです。それがイランに与えられたのです。そして、それは異なる活動の運営のため、代理軍隊へ。

(A)基本的にはテロリストです。

(B)実際、彼らは世界最大のテロ支援者です。そして、これが彼らが継続して行っていることです。彼らは、単に代理戦争を戦う他の集団に資金提供をしているのです。資金洗浄と言ってもよいでしょう。彼らは自国民のために、ほとんど何もしていません。そのためイランでは、国民の中の年齢30歳代以下で高学歴のとても多くの人たちが失業しているのです。

(A)そして自分たちの政府に、とても不満を持っています。

(B)そのとおりです。そして彼らは路上に駆り立てられて、地上軍となっています。ですから、国内がとても混乱しています。

(A)たいへん興味深いことに、オバマ時代のアメリカ政権とヨーロッパの思考全体が、「もし、我々がイランをなだめることができれば、中東はもっと安定する」というものでした。ところが我々が受け取ったのは、中東を不安定にするイランの働きの増大です。フーシ派を養って、サウジアラビアを北から攻撃させ、シリアの民兵を養って、あの地域を不安定にさせ、それからガザのイスラム聖戦主義とレバノンのヒズボラに、さらに資金を与えています。ですから、私たちが実際に目にしているのは、イランの蝸がさらに巨大に、さらに獐猛に、さらに危険になっている様子です。あのイラン協議の結果として。なのになぜ、皆がトランプ大統領の決断に、目を見開いてあのように驚いたのか？「この協議は、イラン以外はだれにとっても何の益にもなっていない。事実、イランはさらに中東と世界を不安定にしている」

(B)先週、イランはみずから協議の一部から撤退しました。「だれもこの後ろ盾をしていないなら、なぜ、自分たちが留まる必要があるのか」と。しかし事実は、世界で実際に起こっていることが、なかなか興味深く、彼らは、Arak（アラーク）の重水プラント（原子炉）を継続しています。これは基本的には、ウランを燃料レベルから武器レベルにする工程を迂回します。彼らは継続して最新の遠心分離機を購入していて、これにより、ウラン238をウラン235と分けます。そうして彼らは、不安定な同位体を得て、核爆弾を作ることが可能になります。それでも世界は、そのことについて沈黙を守り、この協議に同意したこれらの国々

は、実際に起こっていることに目を向けもしません。彼らは、初めからずっと彼らの計画を推し進めながら、濃縮の展開を10年間控えることに同意したのです。武器を作るための80%以上の（ウラン）濃縮ができないように。

(A)ええ。私たちは、イランが厳しい状態に直面している事実について話しました。そこへオバマ大統領とジョン・ケリー、その他が登場して、彼らはイランの勢力や、それからイランのペテン師たちを回復させています。そして次にどうなったのかと言えば、トランプ大統領が登場して、選挙活動の間中・・・だれも彼のことを“無計画”であると非難することはできません。彼は選挙活動の間、ずっと言っていましたから。「これは邪悪な協議、恥ずべき協議である。私が大統領になったら、この協議から撤退する」彼は初めから、ずっと言っていました。そしてもちろん、ベニヤミン・ネタニヤフが、昨年2月、3月に動かぬ証拠を提供しました。イスラエルのモサド（対外情報機関）による見事な軍事活動によって、テヘラン郊外にある倉庫に入り、それらを回収することができたのです。我々はテヘランにある商業地区のさびれた場所に入っていく、イランが過去も現在も、いまだ核弾頭への道を突き進んでいる証拠となる資料やCDを、半トンほど回収することができました。

皆さんにひとつお伝えしたいのは、たしか4月だったと思いますが、トランプ大統領は、ある結論にいたりました。「アメリカがイラン協議から撤退し、新しく、そして厳しい制裁を加える時が来た」さて、制裁は当初、だれにもイランから石油を買うことを認めませんでした、しかし彼はいくつかの国を免除しました。

(B)中国、トルコ、その他の国々。それがいま、基本的にはそれらの扉が閉ざされました。経済への影響は、燃料をもとにした産物だけに限らず、鉄鋼産業や彼らの鉄鋼業者にも影響しています。これについて先ほども話しましたが、彼らの労働力の10%が鉄を輸出できなくなることで、影響を受けるのです。

(A)そのとおり。ですから何があったのかというと、最初は、去年敷かれた制裁は、厳しいながらも完全に麻痺させることはなく、イランは、まだ一部の国々に一日110万バレルを販売することができていました。今年の5月1日、トランプ大統領は新しい制裁を課し、今回は、だれも、いっさいの石油をイランから購入することが許されません。ただトランプは、「だれも買うことを許さない」とは言いません。「買って構わない。しかし我々との取引はできなくなる」彼は基本的には、そう言ったのです。「イランから石油を買いたければ、あなたはアメリカ市場を失う。だれと取引をしたいのか、ハッキリと決めなさい。イランか？それともアメリカか？両方と取引はできない」そして、そのために皆が火から逃げるように、イランから逃げたのです。ブルームバーグ（アメリカの大手通信社）によれば、5月は一日の生産量が、たった70万（バレル）まで下がったそうです。これは、彼らが以前販売できていた量の三分の一です。そしていまは、先生がたったいま言われたように、鉄鋼産業と石油化学製品、ガス産業に新しい制裁が課せられて、イランの輸出の88%が、完全に彼らから取り上げられました。

(B)これは、あなたが最初に話をしていたことにつながりますね。なぜなら、湾岸地域のどこかで戦争が起こる可能性があります、しかし、これから先の3~4ヶ月後にふところが空っぽになると分かっているなら、動機としては「我々は、すでに、彼らに必要な資金や、攻撃するのに必要な重火器や、その他のものは送っている」ですから、彼らの思考の中では、すぐにもそれを行おうとするでしょう。

(A)そのとおり。それが、まさにこの危機の始まりです。5月の初めに、史上もっとも厳しい制裁が課されたために、イランは危機を人工的に作り出しました。ここを、よく聞いてください。アメリカの急所を攻撃することによってです。つまり、あの地域のアメリカ兵たち、その地域のアメリカの味方、それから、あの地域の石油産業です。そしてみなさん、5月12日の日曜日、イランの代理のいくつか、フジャイラの港を攻撃しました。フジャイラは首長国連邦のひとつで、首長国連邦はアブダビやドバイなど、いくつかの首長国から成ります。フジャイラはそのひとつで、そこには非常に重要な港があり、実際にはホルムズ海峡のバイパスになっています。そしてそこに4隻の船が、事実、爆発で損傷していて、そのうちの2隻はサウジの石

油タンカーでした。不幸中の幸いだったのは、それらはすべて空だったということです。しかし、二日後の5月14日。イランはいま、イエメンのフーシ派を動かして、彼らが7機のドローンを送っています。これは爆発物を積んだ自爆ドローンです。今回は逆の方向で、東ではなく、西側にある別の石油産業を攻撃するためでした。つまり、それは石油パイプラインで、サウジアラビア東部から、はるかアラブ海から紅海までの、西側までです。そして、彼らはサウジ政府が運営する石油会社の石油パイプラインを攻撃しました。

(B) (サウジ) アラムコ？

(A)はい、アラムコです (サウジアラムコ：サウジアラビア王国の国有石油会社)。彼らはこの2年間、売ろうとしていました。みなさん、いまイエメンから何百キロと離れてドローンが使用され、そしていま、舌戦はどんどん激しさを増し、それから行動がどんどん大胆になって来ています。ところで、フーシ派の指導者のアブドルマリク・アル・フーシが言いました。「サウジアラビア全域の首長たちを、だれでも狙える」さらに彼は、これらの自爆ドローンは、イスラエルに到達することも可能であると匂わせました。わお！

(B)イラン軍の上層幹部による、また別の声明もあります。「次はゴランだ」繰り返しますが、私たちが目にしている、これらの発言のすべてを御言葉と照らし合わせてみると、これらの国々は、エゼキエル38章、39章であげられている国である、ということを確認することが、とても重要だと思います。これらは預言が展開される地域です。そして、彼らがどんどん明確になるのを、私たちは見えています。ダニエル書12章4節では、終わりの時まで幻が封印され、そして知識は増すとあります。

**ダニエルよ。あなたは終わりの時まで、このことばを秘めておき、この書を封じておけ。多くの者は知識を増そうと探し回ろう。(ダニエル12章4節)**

それを今日、私たちは見えています。皆が気づいているとは思いませんが、ゴラン高原がどれほど戦略上重要であるのか。ある種、このすべてを挑発しています。あちらで石油が見つかり、いまやアメリカ合衆国の大統領が、ゴラン高原におけるイスラエルの主権を承認すると宣言しました。そして今度は、レビヤタン油田。ガス田と言いますか。天然ガスやLPガス製品の市場がダメージを受けています。そして次に新しい強豪が、イスラエルという姿で現れましたが、彼らを教条主義者が取り囲んでいます。教条主義者は、その宗教システムのゆえに、イスラエルが海に投げ込まれて滅ぶのを願っていますから。これらのことに、ただただ驚愕します。何千年も前に預言者たちによって、彼らが書かれているのですから。ほぼ3千年前です。それがいま、私たちの目の前に飛び出しているのです。

(A)聖書を信じるクリスチャンにとって、今日起こっていることは、何一つ驚くに値しません。なぜなら、これらは、まず第一に神が完全に支配しておられます。神が御座に着いておられます。そして私たちが中東で目にしているすべての障害は、エゼキエルが描写している戦争が起こるために、ある種、私たちが予想していることです。エゼキエルの戦争は、中東で起こる戦争であり、財政、経済的な利益目的の戦争です。ですから、いま私たちが目にしていることは、かなり興味深いことです。それからもうひとつ、皆さんに思い出して欲しいのは、これはイランとサウジアラビアの間での戦争の始まりではありません。私たちがいま話しているのは、この4年間の話です。この協議が出て来て以来、4年の間、イランはその根性を受け取ったといえますか、民兵を北のイランと南のイエメンの両方から動かし始めるという根性です。そうしてサウジアラビアを、ほぼ毎日のように攻撃しています。皆さんの多くが知らないことですが、サウジはロケットやドローン、爆発物で、毎日のように攻撃されているのです。ムハンマド・ビン・サルマーンは、あの地域で多くのフーシ派を解放し、そのことによって多くの民間人が殺害されたとして非難されていますが、見ての通り、サウジはこの状況の中で、ほとんど何もできないのです。

(B)彼らは本当に無力です。そして、エゼキエルのシナリオの別の部分では、これがもうひとつのパズルのピースで、これを見ていると、本当に驚きます。メッカとメディナは、サウジアラビアの中にあります。彼らはそれを認めませんが、彼らのモスクは実際、サウジアラビアにあるのです。彼らは、それはエルサレム

にあると主張していますが、それは違います。ただ、イスラエルとサウジアラビアの関係が発展するのを見ていると、サウジアラビアは抗議する国です。少なくとも彼らの一部が、イスラエルへの侵略に対して問うのです。「ここに来て、何をしようとしているのか？」ですから、このシナリオのすべての役者がそろっているのです。そして興味深いのが、あなたも知っているとおり、コンピューターの前に座り、自分たちの意見や解釈と異なる者を批判して、キーボードを打つ人たちがいます。最近、私の所にも批判する人が来て、言いました。「あなたは、いつもエゼキエル38章、39章の話をしている」あの、それが地平線に見えているのです。どうして話さずにいられますか？すべてが起こっているのに、どうして話さないのか、教えてください。

(A)つまり彼らは、「その話はやめろ」と言っているのですか？

(B)ええ。「エゼキエル38章、39章の話はやめろ」と。申し訳ないが、それはありません。

(A)よいですか？ひとつ理解しなければなりません。イランによって始まった危機のところまで話しました。すでに、いくつかの行動が取られました。アメリカは原子力潜水艦のUSSロサンゼルスをギリシャに置いています。すでにUSSアブラハム・リンカーン（米航空母艦）も、もうすぐペルシャ湾に入ります。ペルシャ湾には、すでに他の2隻の軍艦があり、中に入っています。そして、B-52（戦略爆撃機）、F-15（戦闘機）、F-35（ステルス戦闘機）、F-16（戦闘機）もあります。これはすべて、アメリカ軍がサウジと首長国たちの所有している勢力と合わせて持っているタイプです。もちろんイスラエルは、ここには関わらないようにしています。しかし、もしイスラエルが攻撃されるなら、イスラエルも何らかの形で報復しなければなりません。いまは、イスラエルがここからはずれている方が、アメリカとイスラエルの利益になりますが。なぜなら、イスラエルが何かをすれば、直ちに他の場所でムスリムたちがそれに反して団結しますから。ただ、皆さんにお伝えしておきたいのは、皆さんが理解しておくべき、とても重要なことです。現在、私たちが目にしているのは、イスラエルの破滅、アメリカの破滅を誓っている国によって不安定になっている中東で、もしヨーロッパが従わないなら、ヨーロッパさえも滅ぼす、と。そしてイスラエルを滅ぼすチャンスが彼らに与えられるなら、彼らは第一回目から、それを利用するでしょう。そして残念ながら、アメリカはエゼキエルの中で見ての通り、イスラエルを助けません。少なくとも聖書は告げています。他のだれでもなく、ただ神だけが助ける、と。

(B)世界一の大国、世界で最も裕福な国、そして世界で最も寛大な国が、世界的な出来事を描写したシナリオから抜けているというのは、不思議に思うはずです。ゼカリヤの預言が地上のすべての諸国について告げていて、ここ、私たちの国に何らかの移り変わりがあることを明確に示唆しています。2020年にそれが起こらないことを願いますが、現在、私たちには非常に親イスラエル派の政府があり、そのことを神に感謝します。ただ、今日のニュースで起こっていることや、国々の認識、彼らがどういった立場を取っているのかを見ているだけでも、私たちがこれを指し示すことは、とても重要だと思います。

イスラムの間で、異なる終末論が存在します。スンニ派は、終末のシナリオをある方向に見ていて、そして、過激シーア派ムスリムがいます。彼らはたびたび「アポカリプティック・イスラム」（アポカリプティック：黙示録的な）と呼ばれていますが、彼らが信じているのは、「第12イマーム（指導者）が再度出現するためには、世界滅亡が起こる必要がある。そして、イスラムに関わる混乱に関して、世界のすべての状況を落ち着かせる」そのために彼らは、世界の舞台にその男が出るために、この世界滅亡を生み出すのが、自分たちの責任であると見ています。ですから、単なる資源がらみの問題ではなく、単にイランの態度によって動機づけられたものでもありません。彼らはずっと世界の舞台で自慢していますが。これには宗教的な要因、終末的な要因があるのです。

※12イマームとは：12イマーム派は、イスラム教シーア派の一派で、シーア派の主流派とも言われている。「12イマーム」という名称は、歴史上12人のイマーム（シーア派の指導者）が現れたことによりつけられた。12イマーム派では、シーア派指導者であるイマームの地位は、初代アリー以降、12代目までムハンマ

ドの子孫によって継承されてきた。そして12代イマームの時に、このイマームが人々の前から姿を消した。これは言葉どおりの意味ではなく、世界の内側か、もしくは存在の見えぬ次元に「隠れ」たとする。この「隠れ」（ガイバ）の状態は現在でも続いており、最終的には最後の審判の日にイマームが再臨すると信じられている。（Wikipedia、その他参照）

以前、私たちはある男に注目していましたが、彼はまるで自分自身をバプテスマのヨハネのような役割を持つと思っていて、自分が第12代イマーム、もしくはマフディ（救世主）の先駆者であると信じていました。ですから、これには宗教的な要因があるのは確実です。

(A)さて、これでこの背景にある歴史を説明できた事と思います。これがどのようにして、とんでもない“イラン協議”から始まって、中東がいかに不安定になったのか。それからトランプ大統領が、いかにしてものすごく大胆な動きを取って、再度制裁を加え、イラン協議から撤退したのか。そしていま、私たちはイランの本性を見ています。もしイランが望むものを受け取らなければ、彼らは言います。「我々は、再びウランの濃縮をする」これが、まさに我々が恐れていたことであり、彼らは世界を恐喝して、いつもいつも自分たちの望むものを手に入れています。

Barry先生、来週は欧州連合の選挙です。そして、水平線に見えているのは、革新的なリベラルから、非常に保守的な陣営への移行です。ヨーロッパは来週以降、変わります。そしてこれは、とても興味深いことです。私が、なぜこんなことを言っているのか。その理由は、私がエゼキエルから理解しているのは、アメリカ、ヨーロッパ、サウジアラビアは攻撃を非難する側で、そしてロシア、イラン、トルコ、リビア、スーダンが、その攻撃を始めます。それはロケットによる攻撃になる可能性が大了。なぜなら、聖書は「空から来る暗雲」と告げていますから。そしてもちろん、神が天から大きな助けを送られます。明らかにそれが、これらのロケットを途中で破壊して、軍隊を地上で破壊するでしょう。それを見るのは、素晴らしいことです。ただ私たちは舞台が整い、2つの陣営が作られているのを現在目にしています。

(B)たしかにそのとおりです。そしてあなたがヨーロッパについて指摘したことは、興味深いです。なぜなら、これらの上層部の指導者たちの記事を、私たちはいくつも目にしていますから。ドイツといった欧州連合の本当の指導者が、反ユダヤ主義に反対して立ち上がったとか、ここ最近では聞いたこともなかったようなことを、私たちは耳にしている、より保守的な視点への移行が見られます。それは私が思うに、これらの国の中にいる過激派イスラムの発展や移民問題が原因でしょう。

(A)ええ。リビアで80万人が、地中海を渡ってヨーロッパに入るのを待っています。

(B)ですから、イスラエルの側に立つというのは、過去、彼らにとって全くなじみのない考えだったのですが、少なくとも今は中道になって来ていて、これはとても興味深いと思います。

(A)ええ。とても興味深いです。私たちがいま交わしてきたイランやなにかの会話の中で、ひとりの役者については言及していません。それは北朝鮮です。皆さんも私も知っているのは、北朝鮮はトランプ大統領の動きを、じっと座って見ているということ。なぜかという、もしアメリカが何らかの形で大胆に立ち向かって、イランに学ばせなければ、彼らにとっては、それは何でも好きなことができる許可証を得たということの意味しますから。それに関しては、どう思われますか？

(B)彼らはすでに、いくつかのミサイル実験を制定しましたから、彼は確実に“限界に挑んで”いるでしょう。北朝鮮に対する制裁が解除されなかった時の、彼の態度に興味をそそられますね。彼はまるで、自分が交渉の座について協議で交渉して、皆が望むものを手に入れて、機嫌良く立ち去れると思っていたようです。ところが北朝鮮側が望むものを得られなかった時、彼はすぐに戻って、執拗な本性を見せました。私たちが知っているのは、ひとつにイランと北朝鮮とのつながりがあるということ。

(A) 確実です！

(B) そして彼らは物を提供していて、それらは一般の貨物船で送られているために識別ができず、さらに航空機によっても、北朝鮮から輸送されています。基本的には、他の国によるイランへの武器輸送もまた、前回の協議が禁じていることで、それがいま、北朝鮮が隠れて物品を提供しているのです。大陸間弾道ミサイルを発射するために必要な部品です。

(A) 興味深いのは、イスラエルは、いまの時点では、これに関わっていないかもしれませんが、私が知る限りでは、今月の初め、すでにイランが何かをもくろんでいるとアメリカに警告したのは、イスラエルのモサドです。さらに興味深いのは、私たちはイラク国内のスニ派部族の中に多くのコンタクト（情報提供者）を持っていて、イラク国内にいるこれらの部族の指導者たちが報道したのです。「イランの民兵、ハシュド・アル・シャビが、彼らの弾道ミサイルを軍事キャンプに集結させた」それからまた、これについて私は先週報告をしていると思いますが、また、彼らが言ったのは、「あの地域で投獄されているスニ派の囚人の多くを、シーア派が人間の盾として使うだろう。そうすれば、アメリカはイラク国内の基地にミサイルを撃たないから…」というものです。もちろん、これによってアメリカの兵士たちは…、イラン周辺には合計約30箇所のアメリカの軍事施設があり、当然、彼らはアメリカ人が彼らの脅威にさらされることを避けたいのです。まさにこのために、ポンペオ長官は多くの訪問を切り上げて、はるばるバグダッドに飛び、それからのはるばるイスラエルに飛んで、ヨーロッパでのいくつかの会談を中止したのです。ですから、私たちはとても興味深い展開を目にしています。

(B) ミサイル発射台を一般人で囲むとは、だれかさんの“プレーブック”（脚本）のようですね。ガザ地区の人たち。この、人の命が軽視されるのを見ていて、今日、私たちは世界中でとても多くのことが粗末にされているのを見ていますが、それを見て、私は終わりの時代に起こるであろう、人間の命の軽視を思い起こします。人を人間の盾に使ったり、私たちはすでに体内の命に対する敬意を失っています。不法がはびこり、多くの人にとって境界線がなくなって、人が生きる際の道徳規準がありません。こういった事のすべてに私たちは衝撃を受けるべきで、センセーショナル主義（人の関心を強く惹くことに注目すること）ではなくて、一見してセンセーショナル（衝撃的）なことが、とても目立っています。しかし、それらの背後はすべて霊的なものであり、終わりの時にそうしたことが横行することを、私たちは知っています。不法の者たちが、執拗に戦争や戦争のうわさにとらわれて、それから人の命を簡単に殺し、不適切な行為が認められたり、これはほんの一部ですが、性的な不品行。ミサイル発射台を人間の盾で取り囲むなど、不適切だと私は思います。“相手には道徳観念があるので敵は撃ってこない”ということを目指すなど、間違っています。しかし殉死することが、唯一パラダイスを保証される道だと信じるなら、人の命の価値は…。

(A) ええ。イランには8千万人の人たちがいるのです。どうしてイランは自国民の面倒を見られないのか。そして、他の国に干渉するのをやめようとしませんか。明らかに、これは霊的な問題です。まさに先ほど言われたように、これは霊的な戦いです。イスラムの霊、過激派イスラムの霊、周りの者全員を滅ぼそうとする霊、支配です。先日、私はイスラエルの軍事専門家と話をしていたのですが、彼らが言っていたのは、近年、彼らがトルコやロシア国内で会談を持つと、いつも彼らは、ある興味深い印象を受けるそうです。ロシアは、世界がロシアを“ロシア帝国”として見ていた時代に戻ることを望み、トルコは、オスマン帝国の時代を取り戻したいと願っている。そしてイランは、サーサーン朝とペルシア帝国に戻りたいと願っている。これらの国のそれぞれ全員が大きな欲望を持っていて、落ち着くことをせず、拡大し、彼らが大帝国であった古き良き時代を回復させたいのです。彼らが21世紀の思考で考えず、15世紀、18世紀、19世紀の思考に戻っているのには驚愕します。そして彼らは、彼らの周辺の世界的な変化を認識することを拒んでいるのです。それが獣を養い、モンスターの欲望をかき立て、それからもちろん宗教的な観点から見ても、私たちは今、目の前で驚くべき事が起こっているのを目にしています。確実に私たちは、“かの日”が近づいているのを見ている世代、いちじくの木が芽吹くのを見ている世代、滅びない世代です。



(B)あなたが言ったことは興味深いですね。なぜなら、これら世界を支配したい者の中に、“闇の組織”も放り込むことができますから。そして、あなたが言ったように興味深いことが起こっています。トルコで現在、選挙が強制されています。イスタンブールで不正があったとの申し立てがあったために。

(A)彼（与党）がイスタンブールで負けたから、「もう一回、やり直した！」

(B)「もう一回、イスタンブールでやり直そう。そうすれば、我々が票数をコントロールできるから」まさに、それが彼のしていることです。ただ、あなたが先ほど言ったように、彼はオスマン帝国の再建を目指しています。プーチンには、再び母なるロシアに登りつめるといふ、彼自身の野望があります。私たちは、私たちの国で、グローバル化に向けての動きがあります。これらすべてのことが、ひとりの男が登場し、彼がイスラエルと契約を結ぶ思想へと押し進めます。それが中心点というか、現在の対立の溶解点になります。ゼカリアでさえ、言っています。彼が問題を解決し、そして偽の平和ができます。それによって神殿が再建され、他の要因もです。ただ興味深いのは、これが今日、世界中の多くの人たちの思想である点です。「われわれは、たった1%の人たちで支配する必要がある」それから欧州連合がある方向に向かっていて、何らかの形で復興ローマ帝国になり、そこから反キリストが現れます。海から獣が出て来て、そして地から偽預言者が出ます。そっちの方向へ動くには、ただ、このような思想でなければなりません。

「いまは、時系列的に、どの時点にいるのか？」とよく話をしています。私は「オリーブ山の垂訓の序文」と呼ぶのが好きですが、マタイ24章3節から8節で、イエスは世界共通の経験について語られました。常に戦争のことや戦争のうわさを聞く。常に方々に地震が起こり、ききんや疫病が起こる。これらのことが、にせキリストが現れるまでになる、と。しかし、彼が“産みの苦しみ”という言葉を使ったという事実は、これらのことがエスカレートするということを意味しています。

(A)ええ。エスカレートして、頻度が増し、強さが増します。

(B)それから出産の部分は、

(A)迫っています。

(B)それは、最も短い部分です。ですから、滅びない一世代が、これらすべてを見ています。すべて、舞台は整っています。私は、このように言いたいですね。人は「今はどの時点にありますか？」と言いますが、イエスは言われました。「これらは苦しみの始まりである」私は、いま、“初めの終わり”であると思います。いまは、終わりの初めではありません。いまは、初めの終わりです。唯一、次のエスカレートは、教会の携挙によって引き金が引かれるのだと、私は信じています。

(A)たしかに。それから、アメリカにおられる皆さんへ、もちろん私は、世界中の皆さんのことを愛していますが、私は、今日、後ろにアメリカの国旗を置くようお願いしたのです。（二人の背後に国旗が置かれている）皆さん全員に、あることを思いだして欲しかったからです。おそらくいまの政権は、このような時代のために置かれたのでしょう。おそらく、いまの政権はイスラエルを保つため、現在、イスラエルを世話するために神が置かれたのでしょう。それは、もちろん創設されています。そして、私は考えていたのですが、それはイラン協議を撤退することから始まり、続いて制裁を課し、それによって、彼らの経済にダメージを与えました。それから大使館をエルサレムに移動して、続いてゴラン高原がイスラエルの領土であると承認するところまで行き、それからイラン革命防衛隊がテロ組織であると認識して、それによって彼らにもダメージを与え、それからエジプトのムスリム同胞団もまた、テロ組織であると認識しました。私は、この大統領と彼の政権には感動させられっぱなしです。そのことで多くの人が私を非難しているのも知っていますが、皆さん、私の立場になって考えるべきですよ。私はユダヤ人として聖書を信じる信者であるだけでなく、私はイスラエル人です。アメリカ人とは違って、我々は物事を違う角度、中東から見ています。現在の中東で、ドナルド・トランプを喜んでいない国は、イランを除いてひとつもありません。中東全体で、で

す。よく考えてみてください。中東の国々のすべてが、「革命防衛隊がテロ組織である」という宣言によって、利益を得ているのです。平和を求めている中東のすべての国々が、“ムスリム同胞団はテロ組織である”と宣言されたことで、利益を得ているのです。彼らは、エルサレムがイスラエルのものであり、ゴラン高原がイスラエルのものである、という事実については気に入らないかもしれませんが。しかし彼らは、実際にはそれで生きてゆけるのです。そして彼らは、それで生きてゆきますよ。皆さんも、もうすぐ目にします。これから2~3週間後に「世紀の協議」が明らかにされます。皆さんはそれを目にして、きっと驚かれるでしょう。ふつうなら大反乱が起こっていたような事柄に、どれほどスンニ派諸国が満足するかを見て、皆さん、驚きますよ。

(B)私たちは、預言者アモスが言ったことも覚えておかなければなりません。ユダヤ人が再び故国に戻った時には、彼らが再び根絶されることはない。皆がイスラエルはどうなるのかと心配していますが、番組の始めにあなたが言っていたように、イスラエルを守っているのはアイアンドーム（イスラエルの防空システム）ではなく、もっと偉大な力です。その神が、イスラエルを故国に戻されたのです。だから、彼らが故国から追い出されたり、押し出されることはありません。それから、ゼカリヤ書が、大患難の間に彼らがエルサレムの都をふたつに分断すると告げています。しかし、それは現在の私たちが語っている政治的な分断ではありません。大患難の間に、別の要因が起こります。いまは、皆が「世紀の協議」を心配していますが、アミールさんが言っていたように、この大統領は記録破りです。彼がこれまで、どれほど親イスラエルのであったかを考えてみてください。彼は、ずっとイスラエルのために立ち上がり、ようやく移動させたのです。

ところで、私は今日、シリアの新聞の英語版を読んでいたのですが、そこにイスラエルの方から飛んで来たミサイルについて書かれていて、その新聞の中で、彼らはこう言っていました。「“テルアビブ”が、いつものように問題に関して沈黙を守っている」私には、ある意味、不意打ちで衝撃的でした。エルサレムを首都として認めない。しかし、この大統領は一步踏み込んだのです。これまで、だれひとりとして大統領が踏み出さなかったところを。前回、私たちが一緒にイスラエルにいた時に話していたことを、振り返っていたのですが、世界の焦点は、イスラエルの8千平方マイルから、エルサレムの71平方マイルになって、それから最終的に焦点は、神殿の丘と呼ばれる35エーカーになります。円はどんどん狭くなってゆき、私たちが見ている最中、注目はエルサレムの都に絞られてきています。

(A)それらすべてのただ中で、私たちは地上で唯一、握りしめるべき素晴らしい約束が与えられている者です。ヘブル書10章は、こう告げています。

**約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか（ヘブル10章23節）**

素晴らしいのは、これだけの大混乱の最中に、信者がもっとも喜んでいる者なのです。とは言っても、私たちが大混乱を好むからではなく、これらは産みの苦しみであることを、私たちは知っているからです。それから、かの日が近づいているのを私たちは見ている、私たちが、私たちの救い主の元に集められる日が、そこまで近づいているからです。ところで、これは「逃避主義」ではありませんよ？ 私たちは問題から逃避しようとしているわけではありません。実際、イエスが言われたのです。

**あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです」（ヨハネ16章33節）**

私たちは患難があることを認識しています。ところで、クリスチャンたちが世界中の多くの場所で殺されているのですよ？ ナイジェリアや南スーダン、その他の場所で。患難がないわけではありません。エジプトや中東のほとんど全域で、またインドネシアやマレーシア、他の国々は言うまでもなく。ともかく、私が言いたいのは、患難はあります。私は患難は恐れませんが、私は、大患難で神の御怒りに会うようには定められていません。これはダニエル書で描写されている7年のひとつ、「憤り」と呼ばれていますが、ヘブル語では

「御怒り/רוחַן」です。私たちは御怒りに会うようには定められておらず、私たちは、この7年を体験するようには定められていません。私たちは、ここから取り去られるという素晴らしい約束があるのです。そして私たちが天にいる間、世は、これらすべてを体験します。

(B)これは良いポイントですよ。大患難の期間全体が、神の御怒りの時です。そして、第1テサロニケ5章9節が次のように告げていますから、

**私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、…救いを得るようにお定めになったからです。**

**(第1テサロニケ5章9節)**

私が思うに、患難前携拳説は、アミールさんがさっき言っていたこと、すなわち私たち“患難前携拳派”が「逃避主義である」と非難されているのは、ある意味、面白いと思ったのです。私は全世界に臨もうとしているこの苦難の時を、キリストによって“逃避”できる者でありたいですよ。もちろん、他の信者たちも。これが、ある種、ネガティブなイメージで言われていることです。私は大患難は経験したくありませんよ。

(A)そう。どうやって互いに慰め合うのですか？

**このことばをもって互いに慰め合いなさい (第1テサロニケ4章18節)**

「よし、あなたを慰めましょう。『もっとヒドくなりますよ』？」

(B)そう。「あなたを慰めましょう。太陽が、あなたを焼き尽くすほど熱くなりますよ」

(A)皆さん、信者が大患難を体験するという考えは聖書的でないだけではなく、私たちがここから取り去られるという、信者の希望も取り上げます。私が、昔よく言っていたのは、「どのようにして天国に行きたいですか？シリア？ミディアム？ウェルダン？」（肉の焼き加減：生・半焼け・中までしっかり焼き）「教会が、完全に焼かれて天国に行く」とは、聖書は告げていません。大患難時代の聖徒だけです。彼らは大患難を通して信仰をもった人たちで、日々、彼らは命と頭を犠牲にします。彼らの頭が切り落とされて、彼らが血のついた衣で天国に行く人たちですよ。しかし私たちのことは、大患難の描写の中で、いっさい触れられてもいません。私たちはあちら（天）にいて、そこで私たちの花婿イエスとの結婚の祝宴をしています。

(B)ええ。神には、それがお出来になるのです。たくさん話をしましたが、教会の携拳について言えば、私は旧約聖書を見たいですね。私たちは携拳について話をしましたが、「ラブチャー（携拳）」という言葉の意味は、“ハーパーズ”、“むりやりつかみ去る”とか、“さっと取り去る”、他にも“出発”とか、何か好きなように呼べばよいのです。ただ、携拳は本当に超自然的な移行であって、生きている人間が、永遠の領域に入るのです。神は、それをするのが可能です。神は旧約聖書の中で二度、それをされました。神は、一世代の人全部にそれを行うことがお出来になります。エリヤもエノクも、ふたりとも生きた人間として、この世から永遠の世界へと、超自然的に移されました。これを経験するひとつの世代があるのです。私はこれを、“グループ・プラン”と呼んでいます。私たちは皆、同時に行くのです。「イエス様、迎えに来てください！」

(A)ええ。史上初めて、世界中の全信者が会うのです。ここではなく、空中で。それから主と一緒にになり、その後は、決して主から離れることはありません。なんと素晴らしい約束でしょうか。第1テサロニケ4章、第1コリント15章、第2テサロニケ2章、ヨハネ14章…。そのすばらしさを語っている箇所は、いくらでも出て来ますよ。主ご自身が来られて、主の元に、私たちを迎えてくださるのです。主のおられるところに、私たちもいるために。私たちのいるところに、主もおられるためではありません。主がいる場所に、私たちも行くのです。私たちは主と一緒にになり、それから主と一緒に…。私たちは、決して主から離れることはない聖書は告げています。つまり、主が戻って来られる時には、私たちも、主と一緒に戻ってくるのです。

主が統治される時には、私たちも、主と一緒に統治します。これは、ものすごいことです。私たちは、よみがえるだけでなく、主とともに治めると聖書は告げています。私たちには、本当に素晴らしい希望があるのです。私たちの祈りは、皆さん全員がこれによって慰められることです。

Barry先生、最後にお祈りで閉めてくださいますか？その後、私はアロンの祝福を祈ります。

(B)もちろん。

天のお父様。あなたに心から感謝します。あなたは、パウロに書かせました。

**昔書かれたものは、すべて私たちを教えるために書かれたのです。(ローマ15章4節)**

主よ。私達は、エゼキエル書を見て、イザヤ書を見、ゼカリヤ書を見て、昔書かれたものを見て、理解する事が出来ます。一つの世代が、取り置かれている事、これらが起こるまでは滅びない世代です。これを伝えてくださり、感謝します。それによって私達は忍耐し、慰められ、そしてあなたの御言葉を通して希望を持つ事が出来ます。

こうして共に過ごせる時間に感謝します。ビホールド イスラエルのミニストリーに感謝します。あなたがアミールさんを用いて世界中の人々に真理を伝えてくださり、感謝します。あなたの民が祝福され、励まされ、情報を受け取りますように。

イエスの御名によって祈ります。

**主があなたを祝福し、あなたを守られますように。**

**主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。**

**主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。**

**(民数記6章24節から26節/ヘブル語)**

**主があなたを祝福し、あなたを守られますように。**

**主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。**

**主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。シャローム**

**(民数記6章24節から26節/英語)**

平和の主であられる平和の君だけが与えることのできる平安が、いまも、とこしえにまで、ここでも、どこにおいても与えられますように。あらゆる理解を超える平安です。

主の御名、イエシュアの御名によって祈ります。

アーメン

ありがとうございます。

ウェブサイト、BeholdIsrael.orgを開いて、ポップアップウィンドウからニュースレターを登録してください。毎週、Barry先生と私とで一緒にやっているディボーションレターも届きます。

それから、どうぞ私たちをフォローしてください。ユーチューブは、Behold Israel/ビホールド イスラエル  
インスタグラムは、続けてBeholdIsrael フェイスブックもBehold Israel

ツイッターでは、アプリやウェブサイトでは投稿しないニュースを毎日投稿しています。これらのニュースは、ツイッターで一日に数回出ていますから。ですので、ツイッターをフォローしてください。Behold Israelです。

ありがとうございます。God bless you!

私たちの為に、お祈りください。明日、私たちは、ここコロラド州のParker市でメッセージをします。

(B)「PEPC/ペプシ」で、です。

(A)そう、「ペプシ」で。「Parker Evangelical Presbyterian Church」(パーカー 福音長老派教会)

ほとんどの長老派の教会が、聖書預言を教えません。ですから、明日、神がされる事を見るのが、本当に楽しみです。どうぞ、私たちの為に祈りください。皆さんのお祈りが必要です。祈りは、私たちの人生の中でも、このミニストリーにとっても、最もパワフルな事です。ありがとうございます。

明日のメッセージは、インターネット配信されませんが、後で、メッセージを配信出来るようにします。明日、私たちが話す2つのメッセージは、トロントでメッセージした内容です。その、トロントのメッセージは、近々配信されます。

ありがとうございます。God bless you!

コロラドのパーカー市より、シャローム!

さようなら。

---

メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル  
<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2019.05.24 (Fri)

---